



GREEN LETTER

グリーンレター

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 遡上数の少ないサクラマス

02. とちの実を拾う秋

03. 赤銅色の月と天王星

Vol. 219

2014/11/01



今月の一枚



「シマフクロウは、いるのか」

表紙写真・文／町田善康

絶滅危惧種のシマフクロウ。彼らの生息には、豊富な餌資源や、営巣のための巨木など、優れた自然環境が必要です。

ところが、美幌町では、シマフクロウの暮らしていた川や森の開発が進み、昭和 62 年の記録を最後に、その姿は確認されていません。現在、外来種の駆除や、魚道づくりの取り組みが行われ、豊かな自然を取り戻す活動が続いています。

遡上数の少ない サクラマス

写真・文／町田善康



美幌町内の川は、過去に治水や農地開発によって、直線化されました。また、直線化により、川が急こう配になることを防ぐため、落差工と言われる構造物が次々と造られました。その結果、魚たちは自由に川の中を移動できなくなり、自然豊かだった川は、魚が住みにくい寂しい場所となってしまったのです。

近年、地域住民と東京農業大学、美幌博物館などが協力し、魚たちの移動を妨げていた7つの落差工に、手作りの魚道を設置しました。それ以降、毎年秋には、魚道を使ってサケやサクラマス、アメマスなどの魚が上流の産卵場所へとのぼっていきます。

ところが、今年はどういうわけか、この川に遡上してくるサクラマスが少ないのです。例年ならばこの時期、多くの親魚や、10個近い産卵床（サク

ラムスが卵を産んだ場所）が確認できるはずなのに…。

もしかして、手作り魚道が壊れているのではないかと、チェックして回りましたが、壊れていません。はたまた、夏場の増水が少なく、上流へ遡上できなかったのではないかと思います、美幌町内の他の川も見て回りましたが、そこでは例年通り産卵が行われていました。

まさか、密漁者が魚を採っているのではないかと思いますでしたが、確認することはできませんでした。その他、考えられることは調べてみましたが、サクラマスが遡上しない原因は、わからないままです。

これから12月にかけて、サケやアメマスの産卵が始まります。これらの魚が少しでも多く遡上してくれるよう、原因の究明が急がれます。

とちの実を 拾う秋

写真・文／久山春美



小学生の頃、美幌のとある場所で、珍しい木の実を一つだけ見つけました。どんぐりとも、栗とも違うごろんとした丸い実で、当時の宝物でした。ただ、目にしたのはその一度きりで、周りの大人に聞いても、何の実かわからずじまいでした。

その謎の実が「とちの実」であることを知ったのは、ずいぶん大きくなってからのことです。それもそのはず、トチノキ（栃木県の県木）は温帯の落葉広葉樹林の構成種の一つで、北海道の西南部以南に分布します。亜寒帯である北海道・オホーツク地方には自生しておらず、街路樹として植栽されているものを除けば、なかなかお目にかかることのできない樹木だったのです。大人になった私は、住む先々で「とちの実スポット」を探しては、秋になると実を拾い集め、絵の題材にしたり、工作の材料に利用したりしてい

ました。

今年10月、ご縁があって故郷に戻ることで、とちの実拾いができなくなってしまうかと思いきや…。なんと！美幌博物館の入口に、トチノキがあるではありませんか。おかげで、今年は9月下旬から10月上旬に、立派なとちの実をたくさん収穫することができました。栗のように果皮にイガがないので怪我をすることもなく、つやつやの実をポロンと取り出せるのは、大変気持ちのよいものです。

ちなみに、とちの実は美味しそうですが、アクが強くそのままでは食べることができません。下処理の方法は複雑で、少なくとも数週間の時間を要するそうです。しかし、デンプンや脂質を含む栄養豊富な食料であったため、古くは縄文時代から食用にされてきたと聞きます。いやはや、昔の人の知恵には感心してしまいます。

赤銅色の月と 天王星

写真・文／八重柏誠



皆さんは、先日の皆既月食をご
覧になりましたか。前回の皆
既月食は2011年12月10日だった
ので、約3年ぶりの皆既月食です。

月食は午後6時過ぎから始まり、
午後7時30分頃、月は地球の影に完
全に隠れてしまいました。とはいえ、
夜空には赤銅色（しゃくどういろ）を
した満月が、ぼんやりと輝いていまし
た。この色は、弱まりながらも、地球
の大気を通り抜けることができた赤色
の太陽光です。地球の影の中でも、月
がぼんやりと輝くことができるのは、
地球の大気がレンズのような役割を果
たすことで、太陽光が屈折し、地球の
影にある月を照らしているからです。

さて、今回の月食ですが、普段は
暗くて見つけることの難しい天王星
が、月のすぐ隣で輝いているというこ
とも話題になりました。天王星の明る
さは、約6等級と暗いため、普段はな

かなか見つけることができません。わ
かりやすい位置にあるというので、夜
空を見上げて探してみたのですが、肉
眼では見つけることができませんでした。
わずかながらの「もや」と町の明
かりによって、天王星の輝きは、かき
消されてしまっているようです。で
も、せっかくの機会です。肉眼では見
ることができない光も、カメラのレン
ズを通すことによって、見ることがで
きるかもしれないと思い、デジタルカ
メラのシャッターを赤銅色の月に向け
て、きってみました。その結果、天王
星と思われる星の輝きを、捉えること
ができました。私自身の腕が悪いため、
あまり綺麗に撮れなかったのが残念で
す。

次の皆既月食は、2015年4月4日。
それまでに、少しでもカメラの腕を磨
いておきたいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

平成 26 年 11 月 4 日 (火) ～平成 27 年 2 月 16 日 (月)

暖房改修工事のために、閉館いたします。

みなさまには、大変ご迷惑をおかけしますが、よろしく
お願いします。

学芸員のつぶやき

.....



先日、オホーツク管内 町村の新人職員が集まる研修会に出席してきました。事務職の方以外に、保健師や保育士、介護士に栄養士など、いろいろな専門の方が来ていました。普段は接点のない人達と会話ができて、貴重な時間を過ごすことができました。(八重柏)